

マキシス(MXSC)

価格競争激化、規模でセルコム・デジと差が付く競争環境。
コンバージド・サービスの高付加価値ソリューションに活路
マレーシア | 無線通信 | 業績フォロー

BLOOMBERG MAXIS:MK | REUTERS MXSC.KL

- 2026/12 期 1Q (1-3 月) は、通信サービス売上高が前年同期比 4.7% 増、EBITDA が同 4.2% 増。営業 FCF が同 40.3% 増。資本的支出増に伴い EBITDA が同 0.8% 増。ARPU が減少の一方、登録ユーザー数が拡大。
- 消費者向けと企業向けのそれぞれで、モバイルと固定光ファイバーを統合・融合したコンバージド・サービスが増収を確保し、堅調に推移。
- 価格競争が激しく、市場シェアでセルコム・デジと差がつく中、コンバージド・サービスの高付加価値ソリューションに活路を見出す。

What is the news?

5/15 発表の 2026/12 期 1Q (1-3 月) は、売上高が前年同期比 4.7% 増の 27.3 億 MYR、そのうち通信サービス売上高が同 3.3% 増の 22.42 億 MYR だった。EBITDA は同 4.2% 増の 10.99 億 MYR、純利益が同 12.4% 増の 4.17 億 MYR だった。消費者・エンタープライズ向けの 1 ユーザー当たり平均収入 (ARPU) が 1.9% 下落したものの、合計登録ユーザー数が 4.1% 増の 1377 万件に拡大したことの寄与により増収となった。利益面では、コスト管理に努めたこともあり、売上高総費用率が 0.2 ポイント上昇の 59.7% へ悪化したものの、金融費用減少が最終増益に寄与した。前四半期比では、通信サービス売上高が 2.4% 減、EBITDA が 1.9% 増、純利益が 9.7% 増だった。

1Q のセグメント別の売上高は以下の通り。(1) 消費者向け統合収入は前年同期比 2.8% 増の 18.23 億 MYR。その内訳は、①ポストペイドが 4.2% 増の 9.63 億 MYR、②プリペイドが 2.4% 増の 6.09 億 MYR、③光ファイバーとワイヤレス・ブロードバンドから構成される「ホーム」が 1.2% 減の 2.54 億 MYR。(2) エンタープライズ向け統合収入は同 5.3% 増の 4.19 億 MYR。その内訳は、④モバイルが 0.9% 減の 2.11 億 MYR、⑤固定通信 & ソリューションが 12.4% 増の 2.08 億 MYR。(3) 非サービス収入の⑥デバイスは同 11.9% 増の 4.89 億 MYR だった。

How do we view this?

通期会社計画は、通信サービス増収率が前期比 1 桁台前半、EBITDA 伸び率が同 1 桁台前半、資本的支出が売上高の 10-12% (1Q 実績 6.3%) と、従来計画を据え置いた。消費者向けと企業向けの両方で、モバイルと固定光ファイバーを統合・融合したコンバージド・サービスを提供することで付加価値を高めることに加え、エンタープライズ (大企業) 向けでの成長を重視。クラウド基盤 (インフラ) を構築してデジタル化と AI (人工知能) を活用することで営業効率を高めることを課題としている。

マレーシアの通信業界は、セルコム・デジが登録ユーザー数のシェアでリード (約 47%) であるのに対し、マキシスが約 26% 前後を維持している。価格競争 (無制限プラン中心) が激しく、消費者 ARPU (1 ユーザー当たり平均収入) 低下圧力がある。テレコム・マレーシアも光ファイバーで強い位置を占めている。セルコム・デジの規模優位に対し、マキシスは統合ソリューションで差別化を図る戦略である。また、配当を維持するなど株主還元も意識した安定運営を続けている点も注目される。

業績推移

※参考レート 1MYR=39.45円

事業年度	2023/12	2024/12	2025/12	2026/12F	2027/12F
売上高 (百万 MYR)	10,180	10,536	10,635	10,926	11,174
当期利益 (百万 MYR)	993	1,396	1,561	1,599	1,655
EPS (MYR)	0.12	0.17	0.19	0.21	0.21
PER (倍)	28.57	19.98	19.45	15.76	15.16
BPS (MYR)	0.73	0.75	0.78	0.81	0.83
PBR (倍)	4.70	4.53	4.74	4.01	3.91
配当 (MYR)	0.16	0.17	0.18	0.18	0.18
配当利回り (%)	4.67	5.01	4.87	5.48	5.60

(出所: Bloomberg をもとにフィリップ証券作成、F=予想は Bloomberg)

フィリップ証券株式会社

配当予想 (MYR) **0.18** (予想は Bloomberg)
終値 (MYR) **3.23** 2026/6/9

会社概要

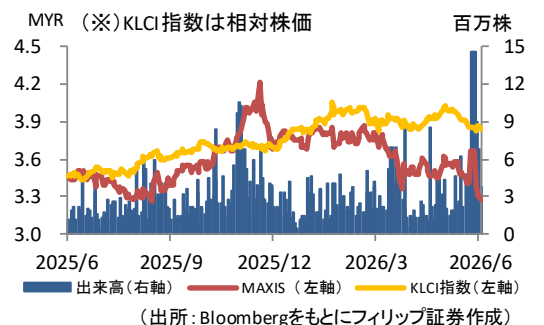
1995 年設立のマレーシアの移動通信サービス事業会社。マレーシアの企業や個人にモバイル通信サービスを提供するほか、音声およびデータサービスに係る国内固定回線ネットワーク、および国境を越えた相互接続サービスに係る国際ゲートウェイネットワークを提供する。

経営権を握る筆頭株主はマレーシア人インド系実業家のアナンダ・クリシュナンが率いる企業であり、同氏はマレーシアの衛星放送最大手のアストロも所有している。1999 年にプリペイド式の携帯電話サービスである「ホットリンク」の運営を開始したのを契機にモバイル通信サービスを展開した。

同社グループは、モバイルと固定光ファイバーを統合したコンバージド・サービスに注力し、①消費者向けポストペイド (後払い) サービス事業、②消費者向けプリペイド (前払い) サービス事業、③消費者向け光ファイバーおよびワイヤレス・ブロードバンド事業、④大企業向け (エンタープライズ) モバイル事業、⑤大企業向け固定通信 & ソリューション事業、⑥デバイス販売事業から構成される。

企業データ (2026/6/10)

ベータ値 0.85
時価総額 (百万 MYR) 25,307
企業価値=EV (百万 MYR) 33,923
3ヵ月平均売買代金 (百万 MYR) 11.3



主要株主 (2026/6)

(%)
1. ビナリオン GSM 62.22
2. EMPLOYEES PFB 13.59
3. AMANAH SAHAM NASIONAL BHD 10.39
(出所: Bloomberg をもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
+81 3 3666 6980
kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平14.1.25）」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。